



鉄砲館だより

種子島開発総合センター

☎2313215

ぶんぶん文化財 ぶんかざい

Cultural property

【第5回】

誠の碑

(西之表市古田 二本松 鹿之峰)

今年を終戦から75年を迎えます。日本は昭和12年(一九三七)から中国と戦争をし、昭和16年(一九四一)12月8日にはハワイの真珠湾を攻撃、太平洋戦争が始まりました。

古田「鹿之峰」の山頂に、「誠」の文字が刻まれた巨石があります。これは戦時中、種子島の戦備強化のため編成された守備部隊、「第57軍管下 独立混成第109旅団 独立歩兵第68大隊」(通称…第一三五七三部隊)の600名が、昭和20年(一九四五)の終戦時、島民との心の絆と平和を強く願ひ求める証しとして、巨石に「誠」の文字を刻んだと言われています。また、国上喜志鹿崎には砲台跡や防備衛所跡が、馬毛島には爆弾投下跡やトーチカが残り、弾薬庫や防空壕などの特殊地下壕も市内に数か所確認されています。

中種子町増田には、広範囲に渡って構築された「九州海軍航空隊 種子島基地」に関する砲台・掩体(敵の空襲から飛行機を守るために築かれた構造物)・弾薬庫・

作戦室・兵舎の一部・
烹炊所(料理を作る場所)・浴槽跡・煙突などを見ることが出来ます。これらの戦争遺構は、戦争の歴史、無残さ、そして平和の大切さと命の尊さを、今に伝えています。

(文責 種子島開発総合センター所長 沖田純一郎)

